

レノファ健康元気体操 produced by ひとつの会

社会福祉法人 ひとつの会（山口県）

住 所 〒 747-0065
山口県防府市大字大崎 801-1

T E L 0835-26-6667

U R L <http://hitotsunokai.jp>

経 営 理 念 人の為に走れ

事 業 内 容 特定施設入居者生活介護（50名）1か所
及 び 定 員 特別養護老人ホーム（29名）2か所
認知症グループホーム（18名）5か所
認知症グループホーム（9名）2か所
短期入所生活介護（10名）2か所
通所介護 3か所 訪問介護 2か所 訪問看護 1か所
居宅介護支援事業所 2か所 防府北地域包括支援センター 1か所
障害者共同生活援助 1か所

収 入 ①社会福祉事業 1,324,753,210 円
(法人全体) ②公益事業 71,245,623 円
平成 29 年度決算 ③収益事業 0 円

職 員 数 324 名（非常勤含む）
(法人全体)

当 面 す る ①収益性向上
経 営 課 題 ②職員満足度の向上と離職率の縮減
③事業基盤の強化
④人材教育
⑤ブランド力の向上



【レノファ健康・元気体操 produced by ひとつの会】

プロスポーツチームと協働・連携した取組と、戦略的な広報力・情報発信力での法人ブランドづくり

2017年12月…

レノファ山口が、山口県と明治安田生命との「Jリーグで地方創生に関する包括協定」を締結。

2018年1月…

上記取組の中で、「健康寿命の延伸・高齢者支援」の推進を図るべく、健康・元気体操の制作の依頼を受ける。

機能訓練指導員・デイサービス職員・統括本部職員が、

それぞれの役割・責務を明確にし、8月18日の披露を目指し、計画・制作を進めていく。



Jリーグで地方創生・まちづくり [健康増進]

「レノファ健康・元気体操 produced by ひとつの会」 記者会見文書

本年1月に、レノファ山口様より、本事業の連携依頼のお話をいただき、当法人の専門職職員が中心となり、この体操を開発して参りました。

“Jリーグで地方創生に関する包括連携協定”に記されている、「健康寿命の延伸に向けた取組に関すること」「高齢者支援に関すること」は、当法人においても、また、福祉業界全体においても、地域・生活圏域における多様なニーズの把握に繋がり、今後も“高齢者”を起点に、三世交代交流イベントなどを開催できればと考えております。

また、先日、レノファ山口様と「地方創生に係る包括連携に関する協定書」を、締結しました。

少子高齢化が進む山口県ですが、この「レノファ健康・元気体操」の取組を、県民の多くの皆様に知っていただくこと、携わっていただくことで、地域の活性化に繋がればと考えます。

また、私たち“ひとつの会”は、この8月で創立より15年目を迎えたタイミングで、このようなお話をいただいたことも何かのご縁であると感じています。

引き続き、「レノファと共に!」、良好な連携・協力関係のもと、福祉・地域の活性化に関する取り組みを続けて参りたいと思います。



社会福祉法人 ひとつの会
理事長 内田 芳明

記者会見の様子 2018.8.18 @維新みらいふスタジアム

～ 社会福祉法人ひとつの会 内田芳明理事長の当日記者会見文書 ～

ひとつの会の理念



ひとつの会のビジョン

10名以下のユニットケアを通じ、施設的ではなく家庭を目指します。

一緒に生き、一緒に老い、老いを愛す

(“あいおい”は相生・相老・愛老の、3つの意味を持っています。)

笑いを創造し、明るく楽しく人生を謳歌できる施設・事業所を目指します。

地域と共に歩むため、自治会活動にも参加し地域の一員として地域行事にも参加します。

利用者にとっても職員にとっても、心地よい施設・事業所を目指します。

ひとつの会のバリュー

利用者・家族 … 質の高い、安心・安全なサービスを追求すること

職員 … チームワークを大切にすること

地域 … 地域との連携を重視し、地域密着型の福祉を推進すること

自分自身 … 自己研鑽を継続すること

社会福祉法人ひとつの会の“理念”、“ビジョン”、“バリュー”

法人理念の“人の為に走れ”は、とてもシンプルで機能性のあるワード。

社会福祉法人の“地域における公益的な取組を実施する責務”への取り組みも含め、企業や他の社会福祉法人との連携・協力をベースにし、経営基盤の強化へ繋げていく。

プロスポーツチームとの協働・連携した背景



レノファ山口は2017年から

「オール山口Jリーグで地方創生」の活動を実施。
スポーツ振興のみならず、健康増進・高齢者支援・
世代交流 など、**スポーツを「支える人」「見る人」への
地方創生活動を開始**した。

ひとつの会も同年より、法人パートナーとなる。

また、レノファ山口レディース選手の雇用を開始する。



**目指すは、
Jリーグと共に「地方創生・まちづくり」**

社会課題の解決は、取り組む法人・企業へ将来的な利益・価値に繋がっていく



【プロスポーツチームとの協働・連携した背景】

レノファ山口との協働・連携のきっかけ…

1. 2017 年度より、法人パートナーとなる。
2. 同年より、レノファ山口レディース選手の雇用を開始。現在は 2 名の選手が在職。
3. 選手が、法人内の福利厚生イベントにゲスト参加など、接点づくりは継続的に実施。

Jリーグチームと共に「地方創生・まちづくり」は、社会課題の解決だけでなく、
法人・企業にとっても将来的な社会的利益・価値の向上に繋がっていくと考えた。

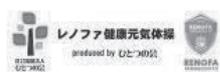


企業と社会福祉法人が協働した経緯



・ひとつの会 → レノファ山口

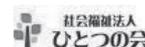
- ① 県内唯一のプロスポーツチーム
- ② 山口県では告知力の高い、キラーコンテンツ
- ③ “子どもから高齢者まで” 浸透力の高さ



・レノファ山口 → ひとつの会

- ① 公益性が高い ～公共的・透明性～
- ② 非営利である ～安定的・健全性～
- ③ 日頃より高齢者の機能訓練に携わっている専門職が在職している。

お互いの“強み”や“良さ”を掛け合わせることで、
キーファクターを作り出し、課題解決と継続的な取組ができるメニューを提案



【企業と社会福祉法人が協働した経緯】

ひとつの会からみたレノファ山口の強みと、レノファ山口から見たひとつの会の強みを確認し、お互いに無いものを、尊重・イーブンの立場で様々な意見交換を繰り返す。

それぞれの“強み・良さ・長所”をプラスすることで、キーファクター(成功の鍵)をまず作り出し、社会課題の解決に継続的に取り組んでいくことのできるメニュー作りを構築する。

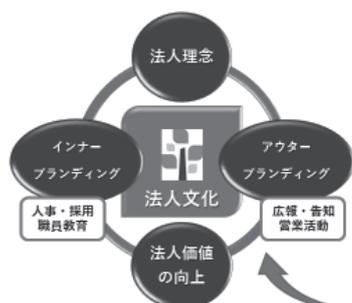


「攻めの社福」へのイメージチェンジ



・まずは“強さ”の前に“弱さ”を知り、他者との様々な可能性を探す

- ① **MARKETING** (I am) ばかりで、**BRANDING** (You are) をしていない
- ② 外部（地域・市場）に発信する、**TOOL・CHANNEL・ITEM** が不足
- ③ 内部重視の傾向が強く、外部との **RELATIONSHIP** の重要性を実感していない

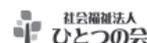


・職員が作り出すことで、法人ブランドを築き上げていく

～“着地点”を明確にし、“職員のベクトル合わせ”をする～

- ① **speed** … 行動優先。行動(DO)のための計画(PPLAN)を立てる
- ② **aggressive** … 弾力的に。固定観念にとらわれない
- ③ **positive** … 前に。作り手が前向きでなければならない
- ④ **original** … 強み。機能訓練指導員としての誇り
- ⑤ **incentive** … 付加価値。外部から「いいね」をもらう工夫

本部職員が“機会”を創出
機能訓練指導員が“技術”を発揮



【「攻めの社福」へのイメージチェンジ】

“イメージアップ”ではなく、“イメージチェンジ”するために、仕掛けのテーマを「攻めの社福」に設定。
“強さ”の前に、“弱さ”をリサーチする。

1. 受け取る相手に“良いイメージを持ってもらえる有効な情報”を送り出せているのか。
2. 情報発信する“道具”が少ない。
3. 法人単体では得られない効果を得る機会が少ない。

健康・元気体操が、法人理念を基に、内部要因と外部要因の双方への働きかけができ、
「人材確保」、「法人広報」、「職員のやりがいの創出」が、「法人文化の醸成」になればと考えた。
よって、“健康・元気体操”をツール・アイテムとし、

1. 統括本部職員 … 機会・市場を提供・創出
2. 機能訓練指導員 … 技術・専門性”を発揮

携わる職員の役割分担とベクトル（方向性）を合わせ、健康・元気体操の作成に取り掛かる。





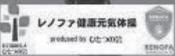
【プロスポーツチームと協働・連携した取組の意義】

「法人のブランドづくり」を、メインテーマに設定。

ここでは、

1. 法人理念の有効的な活用
2. 生産性のある法人本部機能とは
3. 良いステークホルダー（利害関係者）探し
4. 職員参加型で“地域・組織活性化”
5. 個々の役割を明確にする の、5項目にまとめてみる。

テーマ:「法人ブランドづくり」
～“社会福祉法人”である存在価値～

- ① ひとつの会の理念の有効的活用 ～「法人理念」の分かりやすさ～
シンプルな法人理念だからこそ、ミッションやスキームが描きやすい
- ② 生産性のある法人本部機能とは ～ヒントは円の外にある～
制度の“はざま”や、地域・企業・自治体からの、情報収集・行動の調整セクション
- ③ 良いステークホルダー探し ～“繋がる意識”で、疑問をシンプルに解決～
「tool + package」 = theatrical ⇒ 「公益的な取組 + 地方創生活動」 = 
- ④ 職員参加型で“地域・組織活性化” ～ 主軸はCSとES～
地域住民が“職員の存在価値”を認め、自分たちのイメージを創造してくれるための仕掛け
- ⑤ 役割を明確にする ～ 役割 (assign) の見極め～
スピード感が必要だからこそ、強みを持つ企業（他法人）へのアウトソーシング 

【テーマ:「法人ブランドづくり」】

～“社会福祉法人”である存在価値～

1. 法人理念の“人の為に走れ”は、とても覚えやすい言葉。
シンプルな法人理念だから、自由度が高く、応用が利きやすいワード。
この取組が、地域住民の楽しみとなれば、「人の為に走れ」の法人理念に循環してくる。
2. 法人本部機能の生産性はどのようなところにあるのか。
日頃から、地域・企業・自治体など、法人外部との接点が多くある。
そこから得られる情報を、行動に移すための調整・繋がりをつくることが、最大の生産性。
ヒントは、いつも円の少しだけ外にある。
3. ステークホルダー(利害関係者)は、この取り組みにおいては、まずひとつの会とレノファ山口。
健康・元気体操を、今後利用される方に良い印象を持っていただけるよう、
体操（ツール）を、レノファ山口（パッケージ）で包装し、
「レノファ健康・元気体操」という物語（シアトリカル）を作り出す。
4. 地域の活性化は職員の活性化にも繋がり、事業所・組織の活性化にも反映される。
利用者満足度は、法人・職員の存在価値を地域住民に認めてもらえることにもなる。
5. ひとつの会とレノファ山口、職員個々で、その役割を明確する。
自分の役割で、ベストを尽くすこと。今後の展開を、計画すること。
足りないことは、相手（他者）に依頼し、スピード感を持って実行できたことが、成果に繋がる。



情報提供の“質の向上”と“ブランディング”



“質の向上”のために、発信力のあるコンテンツや自治体、マスコミを活用する

- I 発信力と魅力のあるコンテンツと繋がる… レノファ山口（プロサッカーチーム）
- II 自治体との提携… 地域住民との繋がり、安心・信頼獲得
- III メディアやマスコミ、SNSの活用… コンタクトポイントの機会を増やす

広報活動のベースは、“ブランディング”を優先する

- I 伝えたい情報… 常に受け手が触れることが出来る場所に置いておく
- II ぶれない軸・方向性… 価値観を共有し、ベクトルを明確にする
- III 明確なターゲットアプローチ… “伝えたいこと”が“知りたいこと”ではない

今後は、自治体・協賛企業とも連携し、県央部から「健康・元気体操」の普及活動を開催する。



【情報提供の“質の向上”と“ブランディング”】

まとめ：情報提供の“質の向上”と“ブランディング”

健康・元気体操の発表は、慎重に行った。その理由は、

1. 一方的な「広めたい」的発信は、事業・戦略の質を低下になる。
2. SIPS（シップス）の概念を取り入れ、この事業をデザインしたい。
 - S…「共感する」（Sympathize・シンパサイズ）
 - I…「確認する」（Identify・アイデンティファイ）
 - P…「参加する」（Participate・パーティーサーペイト）
 - S…「共有 & 拡散する」（Share & Spread・シェア&スプレッド）

広報活動は、“ブランディング”が大切である。

ブランディング…“伝えたい相手に良いイメージを持ってもらうこと”

私たちの取り組みを、いつでも“伝えたい相手の手元”に置いていくことが重要。

また、活動を通じて、“軸”と“ベクトル（方向性）”の確認を行う。

今後は連携先が増えるため、価値観やコンセプトの共有がより重要になると考える。

広報活動は、人材確保・公益的取組などと、相互リンクしている要素が多くある。

今後、この「レノファ健康・元気体操」は、県央部自治体主催の健康教室から始まり、イベント活動や近隣の社会福祉法人との連携へと、進めて行く予定。



記者会見の様子

お披露目の様子



【 最後に 】

明治安田生命 J 2リーグ 第 29 節 レノファ山口 v s 京都サンガ F.C.の試合前、
「レノファ健康・元気体操 produced by ひとつの会」の記者会見・お披露目の様子。

職員一人一人の大きな経験値になり、今後この活動を広げていくことの責務を改めて感じた。

そして、本日もこの取り組みを伝える機会を与えていただき、
皆さんが確認・共有していただくことが、“社会福祉法人ひとつの会”の大きな財産になります。
皆さんの近くにも、日頃の取り組みに共感し・拡散していただける企業があるはずで
ヒントは、いつも円のちょっとだけ外の“繋がり”にあります。

社会福祉法人 ひとつの会
法人統括本部

